



地域とくらしを見つめた9月

9月は、防災や水環境、地域の産業、税の仕組みなど、子どもたちが自分たちのくらしを支えるものに目を向ける学びが多くありました。学校の中だけでなく、地域の方々や関係機関の皆様に支えていただきながら、子どもたちは実感を伴って学びを深めています。

命を守る行動を考える

9月2日
(水)、地震発生後に火災が起きたことを想定した避難訓練を実施しました。



今回は、防火扉が閉まっている状態での避難方法を確認しました。

実際の災害では、いつも通っている廊下や出入口が、普段どおりに使えるとは限りません。防火扉が閉まっている場合に、どのように通り、どのように安全に避難するのかを体験しておくことは、とても大切です。子どもたちは、放送や先生の指示をよく聞きながら、落ち着いて避難することができました。

訓練後には、本校学校運営協議会委員であり、元日田玖珠広域消防組合消防監の金子徹さんから講評をいただきました。金子さんからは、子どもたちが真剣に避難できていたことについて、おほめの言葉をいただきました。また、防火扉には人が通ることのできる扉があり、あわてずにその扉を通して避難することが大切だと教えていただきました。

この日の給食では、災害時の食事について考えました。普段は当たり前のように食べている給食も、災害時には水や電気、食材の確保など、さまざまな制約があります。非常時のくらしを想像しながら、日頃から備えておくことの大切さを考える機会となりました。

水とくらしのつながりを学ぶ

4年生は、総合的な学習の時間に、三隈川や水環境について学びを深めています。



8月31日(月)には、「源流の森づくり出前授業」を行いました。NPO法人 源流の森づくりの藪野貴士さんのご協力により、海苔漁師の古賀哲也さんをお招きし、海苔づくりについて教えていただきました。

子どもたちは、海苔が海に浮かべた網で育つことや、海苔漁師の方々が多くの手間と時間をかけて育てていることを学びました。特に印象的だったのは、海苔漁師の方々が「雨が降ってほしい」と思っているというお話です。森に降った雨が川を通して海へ流れ、森の養分を運んでくれることで、おいしい海苔が育つそうです。

子どもたちは、海苔づくりの話を通して、森、川、海がつながっていることを学びました。源流の森を守ることが、川を守り、海の豊かさを守ることにつながっていることを実感する貴重な学習となりました。

また、9月1日(火)には、日田市内の小学4年生がオンラインでつながる「三隈川サミット」に参加しました。他校の発表を聞きながら、三隈川をきれいにするために自分たちにできることについて考えました。

本校の4年生も、これまでに浄水場や浄化センターの見学を通して、水や川の環境について学んできました。他校の発表を聞くことで、共通する気付きや新たな視点にふれ、自分たちの学びを振り返る機会となりました。三隈川を守ることは、特別なことだけではありません。水を大切に使うこと、ごみを出さない

こと、汚れをそのまま流さないことなど、毎日の小さな行動が川の環境を守ることに繋がります。

森、川、海、そして私たちのくらしはつながっています。4年生にとって、地域の自然を知り、大切にしようとする気持ちを育てる学びとなりました。

地域の恵みにふれて

9月24日
(木)、3年生が美濃土地改良区資源保全組合の皆様のご協力のもと、美濃台地にある農園に分かれて、梨の収穫体験を行いました。



子どもたちは、地域の方から梨の取り方を教えていただきながら、一つ一つ丁寧に収穫しました。6月に袋かけをした梨が大きく実り、実際に収穫することができたことは、子どもたちにとって大きな喜びとなりました。

梨が実るまでには、長い時間と多くの手間がかかります。日頃から農園を管理し、大切に育ててくださっている方々の働きがあってこそ、収穫の日を迎えることができます。

地域の産業にふれ、実際に体験しながら学ぶことで、子どもたちは食べ物が育つまでの過程や、地域の方々の思いに気づくことができました。

くらしを支える仕組みに学ぶ

9月1日
(火)、6年生は、租税教室で、税金の役割について学びました。



子どもたちは、税金がなかったら社会はどのようなものかを考えながら、公共の仕組みについて理解を深めました。普段何気なく利用しているものや、当たり前のように受けているサービスも、多くの人の負担と支えによって成り立っています。

6年生にとって、社会の仕組みを自分たちの生活と結び付けて考える貴重な時間となりました。

行事を支えるグラウンド整備

9月13日
(日)、育友会農林部主催によるグラウンド整備作業が実施されました。



当日は、グラウンドの草取りや、刈り払い機による草刈りを行っていただきました。また、運動会に向けて、棒引きで使用する竹磨きも行っていました。子どもたちが安全に、気持ちよく活動できるよう、保護者の皆様が一つ一つ丁寧に作業を進めてくださいました。

作業には、子どもたちもボランティアとして参加しました。大人の方々と一緒にグラウンドの草を取りながら、自分たちが使う場所を自分たちでも整えようとする姿が見られました。

10月10日(土)には秋季大運動会が予定されています。行事に向けて、グラウンドの環境が少しずつ整えられています。

子どもたちの学びや行事は、多くの方々の支えによって成り立っています。ご協力いただいた育友会農林部の皆様、保護者の皆様、そしてボランティアとして参加してくれた子どもたちに、心より感謝申し上げます。

未来へ向けて

9月は、命を守ること、自然や地域を大切にすること、社会の仕組みを知ることなど、子どもたちが自分たちのくらしを広い視野で見つめる学びが多くありました。一つ一つの学びは、学校の中だけで完結するものではありません。地域の方々、関係機関の皆様、保護者の皆様の支えがあって、子どもたちは実感を伴って学ぶことができます。

2学期の学びは、これからさらに広がっていきます。今後も、子どもたちが地域や社会とのつながりの中で、よりよい答えを求めて学び続けることができるよう、教育活動を進めてまいります。